

に幾分の参考ともならうかと思つて、書き連ねて見ました。

## 時局と保姆養成所

東京保姆專修學校

神 原

き く

國家總動員下の今日程、生活の凡る方面につき再檢討、合理化の考へられることはありません。必要のさせる消費節約、資源愛護、又體位向上ではありますが、この機會に眞の生活、健全なる生活への立て直しが企圖せられる機運が見えて居ります。

その中での子供の問題の大きいものは、母親の活動による託兒所増設の緊要を、國民體位向上の根本としての幼兒保健問題だと思ひます。前者は、應召者——婦人の活動——遺家族保護、婦人の活動援護の全國にわたる目前の必要から發しましたが、要保護階級の問題に止らず、働く母親の立場を子供の保育の合理化運動としても、託兒問題が叫ばれて居ります。又更に、ある婦人團體では、幼兒期からの教育の必要を、幼稚園託兒所の效能を多くの母親に認めさせようとする啓蒙運動をさへ起しかけて居ります。後者は厚生省によつて、國家的施設、計畫のいろいろ、まことに根本的な企圖が示されます。國家的に、或は社會的に起つて居ります此の問題二つは、私共保育事業關係者當面の問題で託兒機關の増設、幼稚園の保育時間延長、三歳兒以下の預り、等は既に社會の要求のある點ですが、時局にそふやう早く計り度いものです。今日のやうに社會的必要の起つた場合、特に、幼稚園は此の機會に職能を再吟味する必要があるやうに思へます。

併し右の要求は幼稚園に新しく附加された問題ではなく、幼稚園令制定の要旨中には、これに備へる用意を明示されてゐるので、終日保育、乳児預りも一部では以前からされて居られることですが、今日程全面的必要が無かつたため、幼稚園と託児所の職能がはつきり區分されてしまつたこと、思はれます。

此の社會の要求につき、保姆養成所としての備へは如何、を考へて見ますと、遺憾ながら缺陷を拾ひ上げねばなりません。

#### 低年齢の子供の取扱用意

#### 保健の知識と技術

目前必要の此の二資格については不足です。五六歳児と四歳児とは活動状況が大變な相違ですが、養成所生徒の扱ふ幼稚園の子供は殆んど、此の五六歳児で、四歳児の扱ひさへ極く少く、四歳以下は先づ何處も大體、見學理論だけではなからうかき考へられます、現行制度の幼稚園を實習所とするのでは求められぬことで、年少幼児乳児の實際研究に觸れられぬでは甚だ力弱いものになつて仕舞ひます。

尙、日頃考へます點を併せ考へますと要求するこの餘りに多く、年限は一ヶ年なり、さういふ現行保姆養成制度内では、如何に、有效に過ぎず可きかです。一年の修養後直ぐ實地に就く身には理論の適切を往々缺くのもあながち理論の不徹底を許りは責められなく、修業年限延長を唱へ度くなるのですが、——これを救ふには、具體的事實による陶冶訓練を中心に養成せねばならぬと思ひます、これは今更言葉に掲げるのをかしい話で御座います(保姆養成所は従前その立前で、實習が重んぜられて來てゐるのですから)、けれどもその主旨を更に強調し、それを土臺として經驗を整理するがい

いと思ふのです、それで私の生徒指導プランでは

一、段階的發達研究ミ取扱實習(年齢別各種機能を持つた養成所のための實習所に於て)

二、幼稚園の實狀認識(調査を主にした研究)

三、保育事業の實相に觸れさせること

此の三つの機關を通ることにし度いのです。二、三項は幼稚園界の御支援を得なければ達せられない問題ですけれども、先づこれだけは實行の出來てゐることですが、前者こそ必要なもので、附屬の實習所が此の意味で、充分の指導價値を持つようになり度いものです。これは言ふ可く行はれ難いもの、低年齢を含み、各種機能を持たせし、ミ條件をつけるミなか／＼今迄の社會狀勢では現實の問題になり難かつたのでありますが、こゝに時局の必要が、保姆養成所の側に幸して來たと思ふのです、此の要求するものが與へられる機會にあります。

保姆養成所のために用意されたる形に於て與へられは致しませぬところに、修業年限一年の生徒の側に生じる摩擦消耗を出來るだけさける手段を構じさへすれば、何の形に於ても低年齢の子供を受け入れられる事に於て時局の有難さを受けられる側であり、期待してゐるわけであります。私共では、一刻も早く此の附屬實習所の條件を豊かに備へ時局の要求する保姆をつくりたいと目下相談中です。

尙、當面の問題としては、社會的關心への教育の必要を感じますので、新年度よりは、保育に關係する社會の活きた問題に觸れさせる可く、時事問題を講座に入れたいと願つてゐます。

今や、託兒問題は社會の大きな聲となり、厚生省に或ひは自治機關に向つて、要求が叫ばれる社會運動化してきました。

我々保育界も亦呼應して立ち、協力し、併せて此の好期に託兒の必要を社會的運動から教育的必要の運動に到らせ度い存じます。

尙、幼稚園の使命の再吟味されるまき保母養成所についても此の機會に大方諸賢より充分の御検討を願つて、時代の必要に緊密にそひ、保育報國の誠を盡し度く念じます。

## 保母養成事業の重要性

——主としてその主體的方面に就いて——

仙臺 太陽 保育學園

近時保母養成所と言はれるものが全國的現象と言へないまでも増設の氣運を辿りつゝある事は、幼兒保育の發展上望ましい事であるのみならず、且又當然の事と言はねばならぬ。茲に更めて保母養成事業の主要性に就いて語ることは極めて緊要であり、此の機會に於て今こそ各方面からの再吟味が腹藏なくなさるべきであると思ふ。扱て此問題に就いては二つの方面が考へられる。一は保母養成事業なるものが何故に重要であるかの検討であり、他は保母養成事業内に於ける重要な點の究明である。此の兩者は密接不離の關係にあり前者が社會的存在條件に依存するに對し、後者が當該關係者の意識的努力に依存するものなる事は敢て言ふまでもないことである。更に後者にあつては又種々なる視角よりする夫々の考察がなされねばならぬであらうが、所謂養成所相互間の連絡機關の設置等に見るが如き組織的方面の課題に關しては暫く筆を